地震工学委員会

平成 21 年度　第 1 回（通算第 27 回）委員総会　議事録（案）

I　日時：平成 21 年 4 月 14 日（火）

II　場所：土木学会講堂

III　総会設立の確認

委員総数 125 名に対して、1/2 以上にあたる 88 名が参加（出席 71 名、委任状 18 名）し、総会として成立することが確認された。

IV　配付資料

資料 27-1　平成 20 年度第２回（通算第 26 回）委員総会議事録（案）
資料 27-2(1)　平成 21、22 年度　地震工学委員会名簿
資料 27-2(2)　平成 21 年度　地震工学委員会顧問推薦者
資料 27-2(3)　平成 21 年度　地震工学委員会正副委員長および運営幹事(案)
資料 27-3-1　平成 20 年度活動概要と平成 21 年度活動計画(案)「運営幹事会」
資料 27-3-2　平成 20 年度活動概要と平成 21 年度活動計画(案)「各小委員会」
資料 27-4　地震工学委員会平成 20 年度収支報告および活動予算計画(案)
資料 27-5　地震工学委員会　小委員会設立趣意書
資料 27-6　地震工学委員会の小委員会構成の見直しについて
資料 27-7　地震工学委員会の委員数と将来の方向性について
資料 27-8　土木学会各賞の候補推薦に関わる内規について（改定案）
資料 27-9　土木学会地震工学委員会　地震被害調査ガイドライン（改定案）
資料 27-10　「土木学会学術文化事業」助成（特別型）申請書・報告書
資料 27-11　論文編集小委員会報告
資料 27-12　平成 21 年度土木学会全国大会研究討論会　企画書
資料 27-13　日本地震工学会法人会費の経費負担について
資料 27-14　イタリア・ラクイラ地震に関する調査団について

V　議事

１．開会挨拶（川島前委員長）

・ 川島前委員長が取り組まれた 2 年間の活動内容，将来に向けた地震工学委員会の運営，さらに今回の総会の審議事項のポイント等に言及した上で，開会挨拶が行われた。

２．総会議長選出（運上前幹事長）

・ 委員からの総会議長の立候補がなかったため，事務局から田村敬一委員を推薦し、承認された。

３．前回議事録（案）の確認（運上前幹事長）

・ 承認された。

４．平成 21 年度委員名簿の確認（川島前委員長）

・ 運営幹事会推薦の新任委員について承認された。

５．副委員長・運営幹事の選出、顧問・新任委員の紹介

・ 副委員長選出に先立ち、当麻新委員長より新任の挨拶として、“学術の追求と市民・産業界への還元”を目標とした活動の抱負が述べられた。
・ 4 名の顧問が推薦され、了承された。
・ 1 名の再任委員および 5 名の新任委員につき了承された。
・ 副委員長に清野純史委員、幹事長に橋本隆雄委員が選出され、7 名の新任幹事が了承された。

６．審議事項等

1） 平成 20 年度活動概要・平成 21 年度活動計画（案）について

・ 運営幹事会および各小委員会から平成 20 年度活動概要と平成 21 年度活動計画について報告された。
  - ✓ 運営幹事会（橋本幹事長）
  - ✓ 耐震基準小委員会（澤田委員長）
  - ✓ 地震防災技術普及小委員会（大野委員長）
  - ✓ 地震被害調査小委員会（橋本幹事長）
  - ✓ 論文集編集小委員会（堀委員長）
  - ✓ 日本土木史「地震工学部門」編纂小委員会（目黒委員長）
  - ✓ 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会（藤間幹事長）
  - ✓ 地震時保有耐力法に基づく耐震設計法研究小委員会（幸左委員長）
  - ✓ 地震動研究の進展を取り入れた公共社会インフラの設計地震力に関する研究小委員会（川島委員長）
  - ✓ 構造物と構造要素の耐震性検証のための実験技術の体系化に関する研究小委員会（高橋幹事長）
  - ✓ 防災企画推進小委員会（後藤委員長）
  - ✓ 市民の視点で地震防災を考える小委員会（田中委員長）
  - ✓ 性能を考慮した道路盛土の耐震設計・耐震補強に関する研究小委員会（中山委員）
  - ✓ 免震・制震研究小委員会（渡邊幹事長）
  - ✓ 地下構造物の合理的な地震対策研究小委員会（大塚委員長）
  - ✓ 相互連関を考慮したライフライン減災対策に関する研究小委員会（山崎委員長）
  - ✓ 地震リスクと企業継続性に関する小委員会（清野副委員長）
  - ✓ 強震継続時間が長い地震動に対する土木構造物の耐震性検討小委員会（杉戸委員長）
・ 防災企画推進小委員会の後藤委員長より、上記報告の補足として、これまでの講習会で使用したテキストを整理し HP にアップ予定であるとの説明がなされた。

2） 平成 20 年度活動予算執行収支報告及び平成 21 年度活動予算計画

・ 平成 20 年度は 1,894,000 円の収入に対し、1,814,682 円の支出となり、残金 79,318 円であった。
・ 平成 21 年度は総額 1,100,000 円と見込んだ予算内容であり、理事会（4/22 開催）にて決定される予定である。

・ 平成 20 年度活動予算執行収支報告及び平成 21 年度活動予算計画が了承された。

3） 平成 21 年度小委員会の新規設置について

・ 地震・津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会（藤間副委員長候補）の設立趣旨説明があり、承認された。
・ 石積擁壁の耐震診断・補強に関する研究小委員会（橋本委員長候補）の設立趣旨説明があり、承認された。
・ リスク評価に基づく道路構造物・ネットワークの耐震設計に関する合同研究小委員会（澤田委員長候補）の設立趣旨説明があった。小委員会名に「合同」を入れることを疑問とする意見もあったが、他の委員会と合同で小委員会を設立した例はこれまでにもあることから、土木計画学研究委員会の判断も必要であるが、地震工学委員会としては承認された。

4） 地震工学委員会の運営（案）について

・ 地震工学委員会の小委員会の見直しについて
  ✓ 運上前幹事長より、現在の「事業小委員会」を「共通小委員会」へ名称変更についての趣旨説明とそれに伴う委員会内規修正案が説明された。
  ✓ 「事業」という名称が「収益を得る」ことを必ずしも示すものではないが、誤解を避ける意味からも「共通」の名称に変更することとして、上記の見直し案は承認された。
  ✓ なお、内規の第 3 条(2)の条文に使用されている「継統的」を「継続的」に変更する。
・ 地震工学委員会の委員数と将来の方向性について
  ✓ 本田幹事より、地震工学委員会の委員数と将来の方向性について経過報告が行われた。
  ✓ 本件については引き続き、運営幹事会で検討する。
・ 土木学会各賞の候補推薦に関わる内規について
  ✓ 運上前幹事長より、土木学会各賞の候補推薦に関わる内規の改定案について趣旨説明が行われた。
  ✓ 候補推薦の対象範囲は、地震工学委員会の枠に拘る必要がないことから、本内規の改定案４．の条文のうち、「なお、各賞の候補者は、原則として地震工学委員会および各小委員会の委員とする」を削除したいとの提案があった。
  ✓ 上記提案については、多数決により、削除することとなった。
・ 地震被害調査ガイドライン（改定案）について
  ✓ 橋本幹事長より、地震被害調査ガイドラインの改定案についての説明があった。
  ✓ 地震被害が大規模か小規模かに関わらず、被害調査した結果は報告書をきちんとまとめて欲しいといった意見があった。現在のガイドラインでは速報性を重視し、また、調査メンバーの負担軽減からも 20～30 ページ程度の報告書としているが、大規模地震の場合はこれまでのように報告書にすることもあるように修正することになった。

７．報告事項等

・ 土木学会学術文化事業「地震工学特別講座」について報告された（川島前委員長）。
・ 第 30 回地震工学研究発表会および地震工学論文集の準備状況について報告された（堀委員）。
・ 平成 21 年度全国大会討論会の企画について説明された（後藤委員）。
・ 日本地震工学会法人会費の経費負担について説明された（川島前委員長）。本件については、引き続

き運営幹事会で検討することとなった。

・　イタリア・ラクイラ地震に関する調査団について報告された（川島前委員長）。

８．閉会挨拶（当麻新委員長）

・　土木学会地震工学委員会の活性化を行うことの重要性等に言及し，閉会の挨拶が行われた。

以上